

文化

地域と連動 特色生かせ



記者座談会 ①

「あいちトリエンナーレ2013」を総括する記者座談会を昨日に続き掲載する。今後の課題などを話し合った。

印象

記者A 今回初めて名古屋以外
の愛知県岡崎市も会場にな
ったが、どう受けとめられ
たか。

記者A 岡崎市では特
に、空き店舗の解消など街
の活性化を目指す地元の期
待が大きかった。

記者B 岡崎会場では松
応寺の木造アーケードや商
業施設シビコの屋上など興
味深い街の一面に気づかさ
れた。「こんなところがあ
ったんだ」と。ただ会場が
分散しており、回るのは大
変だった。

記者C 岡崎会場の閉店
フロアを使った「まちなか
公演」をパフォーマーとし
て参加する形で取材した。
作品世界に公募の市民が参
加できる仕組みはユニ
ーク。

A 一方で、前回に続け
て会場となった名古屋の長
者町地区は、昔ながらの雰
囲気を残していた前回と比
べて趣が変わってしまった
という専門家の意見もあ
る。三年前のトリエンナー
レで街の価値が見直された
結果、新しい店が入ったり
、駐車場ができたりした
からね。不動産の価値が刻



キッズトリエンナーレのワークショップに参加する子どもたち＝名古屋・栄の愛知芸術文化センターで

キッズが主役、好評

々と変わる都会での芸術祭
は、そういう点が難しいと
感じた。

トリエンナーレ全体の
印象を語ろう。

D 前回は開会式に草間
弥生が出席するなど著名ア
ーティストが駆けつけた
が、今回はオノ・ヨーコや
世界的な振付家イリ・キリ
アンらトリエンナーレの
「顔」となるアーティスト
が作品出品のみで、会場入
りしないまま。キリアンは
内容的にも評価は分かれ
た。現場にアーティスト本
人が居合わせないのでは、
盛り上がり欠けるし、な
んだかコケにされているよ
うで釈然としない。

E メーンは、ヤノベケ

舞台公演も周辺展開を

課題

「さて最後に今後の課題
は、三年後に第三回を開く

ンジの「太陽の結婚式」だ
ったが、既視感があった。
旧作をないまぜにして物語
を作ったが、未来を開く図
式に「結婚」はステレオタ
イプではないか。日本人の
結婚観も様変わりしている
し、放射能被害で深刻なフ
クシマからは「結婚」に対

する絶望の声も聞かれる。
オノ・ヨーコの「生きる喜
び」というメッセージアー
トも今の時点では響かなか
ったのでは。

A 子どもも大人も一緒
に創作体験ができるキッズ
トリエンナーレが充実して
いた。出展作家が講師を務
めた。講師を全国から公募
したりして。トリエンナー
レを続けて開催するには若
い世代へのアピールが大
事。前回に比べ、出展作家
が市民に直接講演する機会
が増えたことも印象的だ。
高橋匡太の提灯行列など、
市民が作品に参加できるア

ロジエクトも良かった。
B Tシャツを着たボラ
ンティアスタッフが多くの目
についた。ボランティアの
力に頼るのいいが、イベ
ントなどがない日でも気軽
に楽しめるよう、固定の解
説や案内をもっと作っても
よかったのでは。

ために何が必要だろうか。

A 国内外からこれだけ
の作家が会するのは、やは
りすごいこと。街の雰囲気
ががらりと変わった。なぜ
直していいかも。

B 正直な感想を言え
ば、取って付けたような大
物芸術家は少ない。また
建築を芸術祭にどう取り込
んでいくかは議論の余地が
ある。見る側にとっては、
芸術家が建築家か、どちら
の作品が区別が付かない
が、作り手の意識は両者で
違う。

E 都市でのトリエンナ
ーレの開催は、よほど魅力
的でないといふ求心力を得られ
ない。越後妻有の「大地の
芸術祭」のように過去作が
残り、新作もあって、地域
巡りをする楽しみもない。
直島などの「瀬戸内国際芸
術祭」のような観光を業し
む要素もない。根本的な特
色がないのにやり始めたト
リエンナーレのためのトリ
エンナーレになっている。

D 美術が当初から愛知
芸術文化センターから館外
展開しているのに対して、
パフォーミングアーツの舞
台公演はなぜかセンター内
に限定された。今回はすべ
て愛知県芸術劇場小ホール
という百数十席の実験劇場
に押し込められ、そのいび
つさが際立った。国際フェ
スティバルなら、主会場に
公演にふさわしい劇場がな
ければ周辺展開するのが当
然。近くにある名古屋市芸



日本の様式美が生かされたオペラ「蝶々夫人」。主催公演の大ホール開催はこのオペラだけだった＝愛知県芸術劇場大ホールで(中川幸作さん撮影)

お断り「名作のとびら」
は休みました。

◆名和晃平—SCULPTURE GARDEN 11月
1日～12月23日、鹿児島県湧水町木場、霧島ア
ートの森。動植物がモチーフの彫刻など展示室を一
体的に使った展示を見せる。有料。月曜(祝日の
場合翌日)休園。☎アートの森＝電0995・74・5945

西 話題の展覧会 東

◆松井紫朗 ココトソコノアイダ 12月23日ま
で、札幌市中央区宮の森2条、札幌宮の森美術
館。1990年代制作のシリコンラバーを使った作品
などによって、松井の創作と思考の歩みをたど
る。有料。火曜休館。☎同館＝電011・612・3562